

## 最近の大口寄贈（2000.4 - 10）

### 図 書 課

中央図書館にはこのところ、きわめて質のよい、あるいは異色の図書・資料コレクションの寄贈が相次いでいる。本年度（2000年度）に入って寄せられた大口のコレクションのうち、日本オーウェル協会（法学部・奥山康治教授）、ビルマ大蔵経（元講師・伊東照司氏）については前号でご報告したので、ここではそれ以外の主な大口の寄贈について報告する。（1箱は約30 - 40冊）

故・中村（朝田）君代氏（4.20受贈）昭33文研英文。蔵書を母校図書館にと遺言された由。ロセッティ研究など英文学関連書籍約30箱。

遠藤文子氏（5.1受贈）文学者、故・漆山天童（1873 - 1948）令嬢。幸田露伴、泉鏡花等と関係の深かった漆山天童の遺した蔵書253点を一括寄贈。白眉は上田秋成「春雨物語」写本で天下一本。特別資料室に収蔵した。

三浦一郎氏（5.15受贈）歴史学者、元本学講師、上智大学名誉教授。ギリシャ史関係図書・資料を中心に和洋350箱。ギリシャの古代遺跡を撮影したカラースライド数万枚など。

武田勝彦氏（7.10受贈）前政治経済学部教授・本学名誉教授。川端康成・立原正秋ら文学者の珍しい遺品、外国語に翻訳刊行された日本文学書のコレクションなど。

故Sie Tien Shan氏（7.17受贈）シンガポールの政府投資公社駐日事務所長。和洋・中国語資料総計20箱。

松村進氏（7.27受贈）旅行会社経営。故・松村謙三氏ご子息。写真家・東村清氏撮影の1980年代初頭の中国各地の風景写真約9万枚など。

久保木茂人氏（8.23受贈）教育学部教員室にお勤めの奥様を通じてロシア文学関係図書約800冊をご寄贈される。

洞口紳也氏（9.18受贈）校友、昭62政経。仕事で中国に滞在中に集められた中国語文献（年鑑類ほか）16箱をご寄贈。

荻野繁（しげ）氏（9.26受贈）元名誉教授・図書館長、故・荻野三七彦先生令閨。先生の旧蔵資料は1992年に寄贈され、整理して、先般、目録も刊行されたが、さらに古文書等貴重な資料の追加のご寄贈があった。特別資料室において鋭意整理中である。

桑木敏氏（10.7受贈）明治から戦前にかけて活躍された物理学者・科学史家の故・桑木武雄（あやお）氏令孫。校友、昭47商。桑木武雄氏は哲学者・桑木巖翼の弟である。桑木氏宛の島村抱月・松井須磨子・西田幾多郎・田辺元・長岡半太郎らの書簡数百通をご寄贈。なおこのお話は、ホームページ「早稲田と文学」へのメールから始まった。

江川紹子氏（10.19受贈）校友、昭57政経。本学講師。ルポライターとして活躍中の江川さんが、過去に集められた「オウム真理教」関連の資料を一括ご寄贈された。多大な波紋を呼んだ社会的大事件であり、いまでも係争中であるが、「いずれは歴史史料として意味を持つのでは」という観点から。彼女のようなジャーナリストの集めた資料が図書館に収蔵されるのは珍しい。

昇隆夫氏（10.25受贈）明治・大正期のロシア文学者で本学の講壇にも立っていた昇曙夢（のぼり・しよむ）の令孫。昇曙夢、子息隆一氏の蔵書、原稿、書簡など。32箱。燻蒸、仕分け中。

現在も日々、さまざまな方から寄贈の打診が寄せられている。大変ありがたいことである。

今日、大部のコレクションが個人では持ちきれなくなっているという側面はたしかにあるが、かくもさまざまな資料のご寄贈を受けるということは、図書館にとってたいへん名誉なことであると考えている。ご寄贈者の芳志におこたえし、これらの資料の確実な整理・保管、活用のために努力してゆきたい。

（文責 松下真也）